

ぞうぐみさんダンスワークショップ

～聴覚障害のあるなし問わず
幼児が主体となり創造するダンスワークショップ～

日程 2024年2月21日(水)10:30~11:30
会場 大和すぎのこども園ホール
参加者 聴覚障害児1名を含む4歳児26名、先生

実施が決定してからの流れ

事前に施設での打ち合わせを行います。

お子さんの特性、先生やクラスメイトとの関わり、手話でのやりとりはあるか、
クラスでの様子、クラスメイトの様子、興味がありそうなもの、苦手なものなど…。

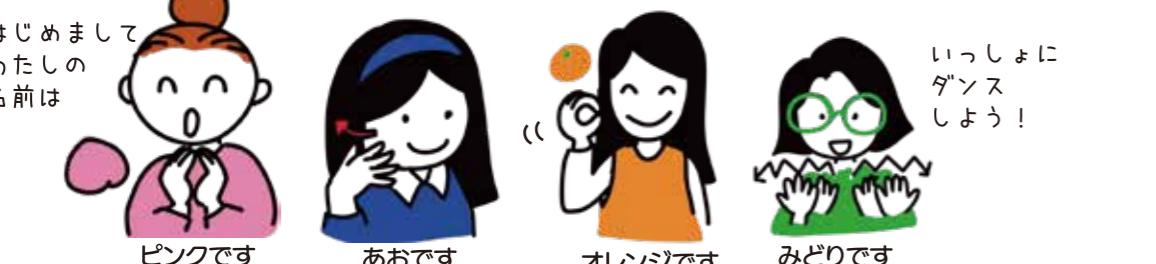


打ち合わせ内容をふまえ、チーム内のミーティングを行い、ワークショップの目的を明確化します。

- ・手話が言語であるという認識をクラスメイトにも持ってもらう。
- ・言葉以外の身体を使った表現でもコミュニケーションがとれる、伝わる楽しさ、嬉しさを共有する。
- ・個人のアイディア、ひらめきをみんなで共有して、良さを認め合える場にする。
- ・安心して挑戦、失敗できる場にする。
- ・休んだり、見ていたい子どもOKで、そのうえで珠玉感はないようにする。
- ・それぞれ担当の役割も決めます。

「親しみやすいキャラクターにしよう！」

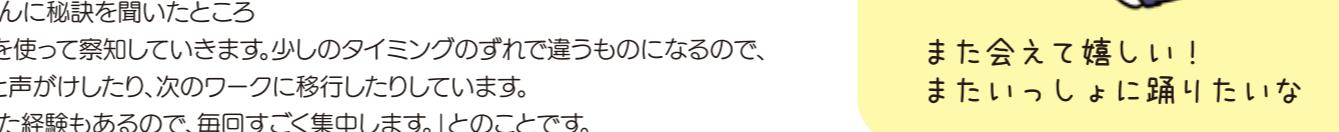
わかりやすい手話と
色の名前のダンサーたちで
いくことにしました。



当日の様子



心と体がほぐれて
想像力がふくらんできたら
みんなのアイディアで
オリジナルのダンスを
つくっていくよ



裕子さんに秘訣を聞いたところ
「感覚を使って察知していきます。少しのタイミングのずれで違うものになるので、今だ!と声かけたり、次のワークに移行したりしています。
失敗した経験もあるので、毎回すごく集中します。」とのことです。

みんなのダンス みんなでダンス

みやぎ県民文化創造の祭典（芸術銀河）2023
舞台ワークショップ普及事業 実践の記録

宮城県黒川郡大和町の大和すぎのこども園。

地域の子育て支援にも積極的に取り組んで、障害のあるお子さんも受け入れています。

芸術銀河2023舞台ワークショップ普及事業として、

聴覚障害のあるお子さんのいる4歳児クラスぞうぐみさん向けと、

聴覚障害があるママとお子さん向けに

ダンスワークショップを行った際の記録をまとめました。

音声言語に頼らないコミュニケーションや、身体表現の楽しさを創出する機会を
増やすきっかけになれば幸いです。



すんぶちはこれまで、色々な障害のある人たちとの芸術活動を行なってきました。

重度の障害がある子どものための演劇創作では、感覚を多く使って楽しむ劇を作りました。

自閉症のお子さんを対象にした演劇創作では、内容に見通しがつくるように「心のじゅんびっく」を用意し、はじまりから終わりまでのタイムラインがわかるようにしました。

いろんな人が一緒に活動するためには、工夫が必要なことがあります。その工夫は作り手側にも、思いもしなかった発想や考え方を与えてくれます。

インクルージョンとは、お互いが歩み寄る、出会ってそれぞれの文化や世界を見せ合って楽しむことなのではないかと、最近思うようになりました。

今回の聴覚に障害がある方とのワークショップでも、実施側にもたくさんの方の発見と、感動がありました。

それを積み重ね、たくさんの人と共有することが、ダイバーシティとインクルージョンを広げていく一歩だと考えています。

今後も色々な芸術の実践を積み重ねていきたいと思います。

NPO法人アートワークショップすんぶち
代表 及川多香子

**芸術
銀河**
主催 みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会
企画・運営 NPO法人アートワークショップすんぶち
協力 大和すぎのこども園

「手話通訳つき親子ダンスワークショップinこども園」の様子→

